

寂性山良清寺

立花閨千代菩提寺

◎良清寺

良清寺は、柳川藩祖の立花宗茂公の正室である閨千代姫（ぎんちよ）の菩提を弔うために、元和七年（一六二二）に建立された寺である。

寺名は、閨千代の戒名の

「光照院殿泉譽良清大禪定尼」

に由来する。

閨千代姫が亡くなったのは熊本県長洲町腹赤村で、現在も墓が残っているが、三十三回忌にあたる寛永十一年（一六三四）に本寺に改葬される。

本寺は初め撰取山という山号であったが、享保十年（一七二五）に、

二代藩主忠茂五男貞晟

「寂性院殿深譽幽廣湛大居士」

追善のため、寂性山と改号する。

立花家墓所《御霊屋》には、寂性院殿の娘であり、五代藩主貞傲の正室松子

「珂月院殿浄譽遊岸光澄大姉」

も合祀されている。

◎立花閨千代

永禄十二年八月十三日（一五六九）〜慶長七年十月十七日（一六〇二）

大友氏の有力家臣であった立花道雪（戸次鑑連）の娘として誕生。

天正三年（一五七五）、道雪は、大友宗麟

の許しを得て閨千代姫に立花家の家督を譲る。日本の歴史に於いても稀な女城主の誕生である。

天正九年（一五八一）同じく大友家有力家臣高橋紹運の嫡男統虎（後の宗茂）を婿に迎える。

秀吉の九州国割りによって、宗茂は筑後国柳河城主となり、柳河に移る。

慶長五年（一六〇〇）、「関ヶ原の戦い」に於いて立花家は、豊臣家に忠義を尽くし

西軍につくが、敗戦。後、宗茂と閨千代姫は加藤清正に庇護される身となった。

肥後で宗茂は玉名郡の高瀬に居住し、閨千代姫は母宝樹院と共に同郡・腹赤村に

居住する事となる。

夫宗茂はその後、清正の赦しを得て上方に上がることになるが、姫は肥後に留まった。

そして、慶長七年（一六〇二）十月十七日、閨千代姫逝去。享年三十四歳であったと云

われている。

「光照院殿泉譽良清大姉」

姫の死去した翌年慶長八年、宗茂は徳川家に召抱えられる。

そして元和六年（一六二〇）遂に柳河城主として返り咲きを果たす

二十年振りに柳河に戻った宗茂は、閨千代姫の為「良清寺」を建立して、その菩提を

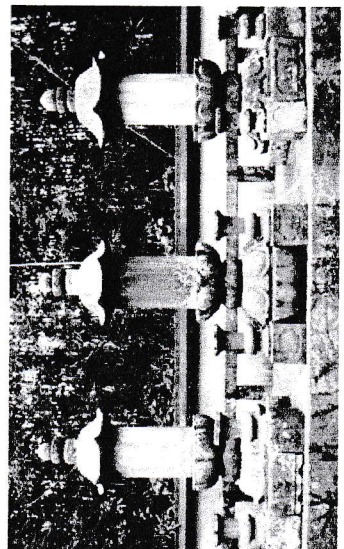
ねんごろに弔った。

【御霊屋】

- 立花弾正貞晟公
- 寂性院殿深譽幽廣湛大居士
享保五庚子年十月二十四日歿
- 前立花飛騨守源宗茂公婦人
光照院殿泉譽良清大姉靈儀
慶長七壬寅年十月十七日
戸次丹後守源鑑連公長女閨千代
- 寂性院殿嫡女 城主貞傲公室
珂月院殿浄譽遊岸光澄大姉
享保十八癸丑年九月十四日歿



▲ 閨千代姫の肖像画



▼ 良清寺立花家墓所【御霊屋】

【立花家系譜】

